

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500519		
法人名	医療法人社団キマチ外科・整形外科医院		
事業所名	チューリップホーム(グループホームひえつ)		
所在地	鳥取県西伯郡日吉津村今吉204-1		
自己評価作成日	平成22年2月23日	評価結果市町村受理日	平成22年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)保健情報サービス
所在地	米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号
訪問調査日	平成22年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者への支援に携わるにあたり、根本となる職員配置数を多く、あわただしなく、個々へのケアが行えるよう目指している。日常生活においては、ご利用者の生活リズムを尊重しつつ、各種活動、役割へのご案内により生活が活性化されたものとなるよう、また外出支援にも力を入れ、地域行事への参加を含めたホーム外活動の支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所満6年を迎えるグループホームで、海沿いの静かなところに位置している。18名の利用者の方は、各々の生活リズムを尊重されて、ゆったりと過ごしておられる。また、日常の外出支援も対応しておられて、墓参りや買い物、家族の方の入所施設への訪問と多様である。医師の往診回数も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を掲げており、職員ミーティングにおいても、今一度理念を再確認した上で、実現に向けた具体的な行動を決める等取り組みを行なった。	「1.安心し、自立した生活 2.地域に開かれ信頼される施設に 3.ひとりひとりの状態にあった適切なサービスの提供」を掲げて、ミーティングの時に再確認しケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、系列施設と合同祭(夏～秋)を開催し地域の方と交流する機会を設けている他、夏祭りや芋掘り・マラソン応援・文化祭等の地域行事を通じ結び付きを大切にしている	GHの行事に参加してもらったり、地域の夏祭りや芋掘り、文化祭等に参加して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ向け実践的活動は行なえておらず、地域行事に参加することで当事業所を身近に感じて頂けるよう、又来所者へ相談援助を行なう事に留まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場をこの一年設ける事が出来ず、課題でもあり反省点だった。今後意見交換の場を用いてサービス向上につなげられたらと考えます。	定期的に開催されておらず、直近で開催された運営推進会議でも、ホームの報告に留まっている状況である。	地域との交流や、家族からの意見の聞き取り等、活用できることは沢山あるので定期的開催し、充分活用してほしい。また、メンバーも固定せずに多方面からの意見の抽出を希望します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	用事にて市町村機関へ行った際や、要介護更新認定に伴う訪問調査のため担当者の方が来て下さった際に、近況を伝えたり互いに意見交換し連携に努めている。	村行政担当とは日頃から連絡を密に出来ていますが、広域連合との連絡は折をみて、情報交換を行い、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝のミーティングの場で管理者より説明する事もあるが、全職員共通の理解として浸透させていくには今後も勉強する機会を持ちたい。施錠は玄関含め日中は行なっていない	身体拘束に対する理解はしているが全職員への周知・浸透には至っていないと管理者とのヒヤリングで伺えたが、施錠は日常行っていない。職員の言葉での抑制等もみられなかった。	研修や全職員への周知がなされると良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・リーダー・サブリーダー職員が主となり、注意を払い虐待防止に努めている。今後は虐待防止に関する外部の勉強会へも参加し学びたいと考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、制度が必要な入居者はまだ存在していないが、これからのために管理者を含め職員には機会があれば研修に行くようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を見ながら説明し、不明な点があれば、その場で言ってもらい、理解してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情があれば伝えてもらえるように重要事項説明書に公的機関の連絡先を載せているほか、館内に掲示し、意見箱を設置している。あった場合には、すぐに運営に反映できるようにしている。	意見箱は設置されているが入らない。面会時やカンファレンスの時に家族から意見要望を聞き取るよう努力されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会を開き、その場で職員の意見、提案を聞き、反映させるようにしている。	職員の意見は月1回のユニット会議で活発に出されており、管理者は職員からの意見や提案を聴く機会を設けている。運営への反映出来るように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人の努力や実績を鑑みて、給与などに反映させるように、努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はあまり行っていない。外部での研修に関しては、職員本人の力量を見定めて、受けるべき研修があえう場合には、それにできるだけ参加してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会でも相互研修に今年から参加し、職員に違う施設職員と交流し、勉強してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご挨拶と初回アセスメントを兼ねて訪問させて頂き、ご本人の思いを確認しながら関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学・概要説明時、入居申込み時、訪問調査時など、都度ご家族と意見交換を行ない関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族とお会いして支援方法を検討する中で、他サービスによる支援の方が効果的と考えられる際には助言等行ない、実際他のサービス利用となられた方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方と対等の対場で接する事を心掛けている。調理の盛り付けや洗い物、洗濯物たたみなどを一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活状況を、毎月ご家族へ近況報告書として送付している他、必要時は適宜連絡を取ってご家族との連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が希望される場所へ出来るだけ外出できるように支援している。実際に実家やお墓参り、衣服購入の希望等あり、外出支援を行なった結果喜んで頂けた。	実家への里帰りや墓参り、他の施設(特養)に入っておられる奥様への面会に行く等、馴染みの関係が途切れない様に支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	主にホール内において、職員が交わりながらご利用者同士のコミュニケーションが行なわれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が見込まれ契約を終了するケースが多いが、ご本人のもとへ面会に行くことやご家族からの連絡も頂いており、関係が切れないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が言葉にはされない部分の思いや希望にも目を向けれるよう日々の関わりを大事にしている。意思表示が難しい方にも同様関わりから推測し検討を行なっている。	利用者の方の表情や家族面会時からのヒアリングで把握するように努力しておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人やご家族・サービス利用先があればその事業所へ差し支えない範囲で尋ねる他、入居後にも普段の関わりやカンファレンスを通じて生活歴等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方については日課計画表にて、心身状態および有する力等現状についてはアセスメントシートを用いて把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族のご意見およびご意向をふまえて計画作成担当者がご利用者の担当職員と協同でサービス計画書を立案し、カンファレンスにおいて意見交換を行なっている。	本人・家族から意向や要望を聞き取り、計画に反映させている。モニタリングは毎月行われており、変更等必要時には家族も含めた担当者会議が開かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録のみならず、チーム内で朝のミニカンファレンスを開き情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは入所と併せ通所サービスも行なっている他、系列の事業所を含めた中でご本人の状態に応じた支援を提供できるよう連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会と協力し、芋ほり大会や運動会に参加させてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、希望のある方はできるだけそのかかりつけ医に診察を受けてもらえるようにしている。定期受診は職員と一緒に行き、また往診などもしてもらっている。	定期的な受診には職員が付き添っている。診療所院長の往診もある。その他、専門医の受診や往診認知症専門医へ受診支援もなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	チームごとに看護師がおり、情報共有と相談をしながら健康面のみならず協働して、ご利用者への支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、数日に一回見舞いなどを行い、その際、本人の治療の進行度をチェックし、病院関係者と話し合い、情報交換を行い、早期の退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症がだんだんと重度になっていく入居者がおられますので、まず、日々の体調の管理、急に体調が悪化した場合にどう対処したらよいか、管理者、看護師、ケアマネージャー、職員、かかりつけ医などと機会があるたびに相談している。	重度化や終末期に向けたホームの方針としては、受け入れる方向性であり、また、運営者である理事長も前向きである。ホームに出来る事や関係機関や関係者と共にチームでの支援する体制作りはこれからである。	家族との話し合いと職員の研修など、準備しておくことは大切である。看取りの方針を作成し、研修を行う事も大切と考えます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人内で救急訓練を行っている。頻繁にできないので、なかなか全員ができるわけではないが、できるだけ習得してもらいたいので、スケジュールを調整したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	集落から少し離れているので、なかなか地域との協力というわけにはいかないが、年に2回避難訓練を行い、職員に勉強してもらっている。	年2回と規定ではなっているが、定期的に開催されない時もある。消防署からではなく、防災関係の会社の人が訓練している。	消防署からの訓練も検討してみたい。利用者も参加しての訓練も検討される事を希望します。又、備蓄は直ぐに口に来るものを検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	可能な限り、人格の尊重とプライバシーの確保を心掛けて対応している。	ミーティングや申し送りで確認している。プライバシーを損なうような言葉かけはみられなかった。記録もしっかりと管理されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば食事であれば好みメニュー日をご利用者ごと順番に設けて献立を考えて頂いたり、外出に際しては行き先を決めて頂くなど自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおむね決まっているが、その中でどのように過ごしたいか尋ねたり、希望があればなるべく副えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔・ヒゲ剃りの介助を始めとし、散髪が得意な職員もおりホームにて無償の散髪も行なっている。希望があった際美容室等への付添いも実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にはテーブル拭きやおしぼり洗い・嚥下体操のほか季節の歌を唱うことを、ご利用と一緒にしている。可能な方には下膳の協力も得ている。	重症化、高齢化に伴い、手伝っていただく場面も少なくなっているようだ。お盆を拭く手伝いなど出来る事をされていた。職員も同じテーブルに着き食事介助をされていたが、一緒に食事を楽しむ事は殆どなかった。	高齢化の問題もあるが、一緒に食事をとりながら、味付けや堅さなどの会話をしながら楽しむ事機関があっても良いのではないだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態に応じて食事の形態を変えたり、お茶を拒まれる方には希望の飲み物を伺い提供するなど工夫している。食事と水分摂取量の確認表も用いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日2回(朝と夕)は、各居室において口腔ケアの案内と見守り・介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らトイレへ向かわれる方、尿意を示す方へは見守りを行なっている。自ら排泄動作を行なう事が困難な方へは排泄確認表を基にしてトイレ案内と介助を行なっている。	排泄チェック表が食堂においてあり、一人ひとりの排泄パターンや習慣の支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維質の物を多く摂取して頂けるように努めている他、冬期においても運動とリハビリを兼ねて屋内歩行を促し、付添い支援を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回入浴して頂けるよう案内を行なっている。入浴を拒まれた際は他ご利用者への案内等により調整をした上で、翌日に再び入浴案内を行なっている。	基本的に午後間に入浴支援がなされている。拒否があり、前回入浴出来なかった利用者から声かけを行い、支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースをお持ちになられる方が多く、なるべくそのペースに沿うよう支援を行なっている。車椅子が欠かせない方へも適宜案内により休息時間を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があれば申し送り時に管理者や看護師より薬に関する説明がある他、服薬状況を観て変化があれば看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に行なって頂ける範囲で役割をお願いしている他、季節ごとの行事により気分転換して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日曜日は入浴をお休みとさせて頂き、外出支援が行なえるよう体制を整えている。必ずしも日曜が外出日と決めてはいないが、外出希望される方が特定の方に偏る傾向もあり調整しながら支援を行なっている。	近くの大手スーパーへの買い物や大山へのドライブと、出かけたという希望に添って外出支援されている。現在、温泉への入浴希望にたいしても検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣い程度の額を管理されておられる方もおられれば、管理が困難な方へは事務所で管理代行し、外出時や買い物時に使って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられるようホールに設置されており、ご家族との連絡を希望される方が実際数名おられ、その際はダイヤル操作など支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾ることや、折り紙を用いた装飾に力を入れている。温度・湿度、明るさにも気をつけ調節を行なっている。	台所、食堂はいずれも家庭的で、音・光・温度とも配慮されている。ことさらに飾ったところがなく、季節感のある共有空間で、自然になじめ居心地よく過ごせた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の入退居や状態変化に際し、テーブルや椅子の配置を検討して、ご利用者同士一緒に話をしたり出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みある物品を持参して頂けるようご家族へもお話している他、家具の配置などに関してもご本人の状態に応じて、使い易いよう配慮を行なっている。	お二人の居室を見せていただいたが、亡くなった夫の写真が飾られていたり、本人や家族の希望で極力物を置かない様に配慮され、いずれもきれいにされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に洗面所があり、トイレは居室を出るとすぐに分かる場所へ設置されている。入浴場にはのれんが掛けられているほか、ホールから玄関が見えるので出入りもし易くなっている。		